

梅田 穰氏が再選 ～山都町長選挙結果～

任期満了に伴う山都町長選挙を2月28日に執行しました。選挙結果は以下のとおりです。

候補者別得票数

当選 梅田 穰 (73歳) 6,699票
有働 秀一 (64歳) 1,657票

【参考】前回 (H29.2.26 執行) 結果

投票結果	当日有権者数	12,626人	13,946人 (▲1,320人)
	投票者数	8,530人	10,911人 (▲2,381人)
	投票率	67.56%	78.24% (▲10.68ポイント)
	有効投票数	8,356票	10,791票
	無効投票数	174票	120票
	無効投票率	2.04%	1.10%

投票区	当日有権者数	投票者数	投票率	投票区	当日有権者数	投票者数	投票率
1	1,962	1,328	67.69	10	678	505	74.48
2	2,278	1,614	70.85	11	760	536	70.53
3	123	87	70.73	12	1,111	738	66.43
4	229	182	79.48	13	156	107	68.59
5	146	111	76.03	14	83	60	72.29
6	274	223	81.39	15	1,023	565	55.23
7	1,054	706	66.98	16	988	568	57.49
8	375	268	71.47	17	574	359	62.54
9	493	388	78.70	18	319	185	57.99

就任あいさつ

「豊かな山都町」を目指して

町民の皆様、温かいご支援を賜り、二期目の町政の重責を担わせていただくことになりました。

「人と緑が育つゆたかなまちづくり」をスローガンに若い人から高齢者まで楽しく暮らせるまちづくりを目指します。

先代の方々が築いてこられた山都町の基盤を大切にしながら、九州中央自動車道の開通を見据えた町づくりに全力で取り組みます。

「体育館建設を含む運動公園の整備」、「道の駅の移転と通潤橋周辺整備」、「有機農業を核とした農業振興」の3つのプロジェクトの早期の完成・達成を図ります。

教育環境の充実と町営住宅の整備を進め、人口流出を最小限に抑えたいと思います。

また、町民の皆様の安心・安全を守るため全力で新型コロナウイルス感染症対策に取り組んで参ります。

町民の皆様のご指導とご協力をいただきますようお願いいたします。



問合せ先 山都町選挙管理委員会 ☎ 72-1111

コロナにや負けんばい！自分たちにできることを！

下矢部西部の北川内・瀬峰地区と地区の老人会「延寿会」では独自に「笑顔繋ぐ推進員さん」を作り、県の縁がわ事業を活用しながら「自助・共助・公助」をキーワードに様々な活動が行われています。

茶話会、語らん会、歩かん会の3つの活動を月1回ずつ推進員さんを中心に行い、集落の高齢者の見守りと隣近所の交流をされています。新型コロナウイルス感染症の発生後は、茶話会は集まることはせず、お弁当を作って見守りを兼ねて配達が行われました。語らん会・歩かん会は、マスク着用と適切な距離を保ちながら屋外でおしゃべりしながら万歩計を着けて歩いたり、縁がわ訪問が行われました。健康づくりとコミュニケーション、見守り活動を、自分たちの生活に合わせた形に工夫して活動されています。



伝統技術を学ぶ「かやぶきワークショップ」

かやぶき屋根修理期間中の1月30日、町指定有形文化財「平行三棟づくり民家」(道の駅通潤橋の隣)において「かやぶきワークショップ」が開催されました。このイベントは、修理工事を行っている阿蘇茅葺工場の植田龍雄さんと町による企画で、町内の10代から80代の17名が参加しました。

かやぶきの特徴や道具等の説明を受けた後、ススキの「かや」を使って小さな古代住居づくりに挑戦しました。かやに触れ、伝統的な技を体験できる貴重な機会となりました。

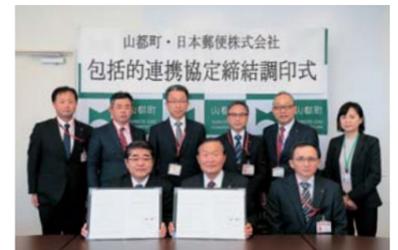
また、実際の修理工事では、矢部高等学校食農科学科と林業科学科の1～2年生42名が実習により切り揃えた茅束も使用しています。美しくなったかやぶき屋根をご覧ください。



日本郵便株式会社との「包括的連携に関する協定」締結について

2月8日、日本郵便株式会社との間に「包括的連携に関する協定」を締結しました。この協定は、地域の見守り活動をはじめ、早期の情報収集や町の広報活動の推進による地域振興、さらに子どもの育成や女性の活躍推進などに関することにおいて連携して取り組みを行うものです。

郵便局は配達等で町内のいたる所に出向かれています。広い面積をもつ山都町において、町としても、提供された情報に基づいて迅速に対応ができるように連携を図ります。



肥後銀行浜町支店でSDGsロビー展

2月3日から28日まで、肥後銀行浜町支店で、国の天然記念物で、山都町にも生息する「ニホンカモシカ」に関するロビー展が開催されました。

ニホンカモシカの熊本県内での推定生息数が42頭と激減している状況に、SDGsの視点から生息の核となる地域の確保と多様な森林づくりにより「かけがえのない自然環境を次世代に受け渡していく」という(株)九州自然研究所の取り組みに賛同され開催されたものです。

肥後銀行ではペーパーレス化や再生紙の利用などにより、環境負荷軽減にも取り組まれており、持続可能な社会づくりに向け、地域の環境・社会問題解決につながる活動を推進されています。

肥後銀行の吉富さんは「ロビー展を行うことで、山都町に生息するニホンカモシカのことや、SDGsについて関心を持っていただく機会となれば幸いです。」と話してくださいました。

